

発 言 通 告 書 要 旨 (1枚目/全3枚)

氏 名 林 茂信

発言番号		発言事項及び発言要旨	備 考
1		<p>将来への投資の継続性について</p> <p>市は、当初予算において、「将来への投資」を抑制し、「財政規律」優先へと舵を切ろうとしているように思うが、これでは「加賀市の未来への芽」を摘んでしまうことにならないか。</p> <p>これまで、市は、イノベーションと人材育成に邁進し、マイクロソフト社やJALとの関係を構築してきたが、投資をやめれば先進都市の優位性が消え、人材流出や産業集積の機会喪失で税収基盤を失い、「財政規律」の維持以上に損失を招く結果になるのではないか。</p> <p>そこで、財政健全化を優先する中で、世界的企業との連携事業や人材育成を継続する重要性をどのように認識しているのか。</p> <p>また、投資抑制による社会的・経済的デメリットをどのように評価しているのか。</p> <p>さらに、目先の基金残高に捉われない、真に持続可能な加賀市のための投資のあり方をどのように考えているのか。</p>	
2		<p>加賀市の新たなビジョンについて</p> <p>提案理由説明で「総合計画に代わる新たなビジョンを早急に示す」とした。令和7年6月定例会の答弁で「廃止の方向」としてきた次期総合計画については、策定するのかもしれないのか。</p> <p>また、以前「新しいまちの設計図」という説明もあったが、市長が考える新たなビジョンとは具体的にどのようなものか。</p> <p>また、再生プロジェクト検討会やタウンミーティングでどのように取り上げるのか。</p> <p>さらに、令和9年度当初予算に盛り込むのであれば、今年秋までに策定が必要だと考えるが、議会との協議など、どのような策定スケジュールであるのか。</p>	
3		<p>ふるさと納税について</p> <p>残り1か月を切った令和7年度の予算12億円の達成見込みについて尋ねる。</p> <p>さらに、令和8年度目標の13億円にとどまらず、素材のブラッシュアップ、例えば、温泉宿泊券に伝統工芸や旬の食材を組み合わせた体験型プランなど、「加賀市でしか手に入らない」独創的で多彩な返礼品の開発が急務であると考えている。</p> <p>加賀市の強みをどのように「戦略的な返礼品開発」や「効果的なプロモーション」につなげるのか、既に実践している取組があれば示せ。</p> <p>あわせて、今後の取組をどのように考えているのか。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (2枚目/全3枚)

氏 名 林 茂信

発言番号		発言事項及び発言要旨	備 考
4	(1)	<p>加賀市医療センター経営の抜本改革について 経営状況について</p> <p>現在の経営実態は昨年より悪化しており、令和8年度の収益的収支は、マイナス7億9,699万2,000円、貸借対照表は13億円超えの債務超過で、経営改革は一刻の猶予も無い。経営悪化の要因をどのように捉えているのか。</p> <p>また、どのような対応策をとっているか。</p>	
	(2)	<p>指定管理者制度の導入について</p> <p>抜本的な対策として、「指定管理者制度」を検討すべきではないか。</p> <p>赤字に苦しんだ和泉市立総合医療センター(大阪府)は、医療法人「徳洲会グループ」を指定管理者にすることで、経営のV字回復を遂げた。</p> <p>「多額の債務超過」という異常事態に際し、既成概念を超えて民間の経営力に再生を託すことを検討してはどうか。</p>	
5	(1)	<p>「加賀市の魅力の磨き上げ」について 九谷焼・山中漆器の振興について</p> <p>九谷焼と山中漆器は加賀市の宝であるが、ライフスタイルの変化、原材料の高騰、後継者不足など、環境は厳しく、デジタルを活用した販路のグローバル展開、若手作家の移住・定着の大胆な支援、「温泉」「宿」「食」などの観光資源と深く融合させた体験型価値の創造など、さらなる攻めの振興策が必要である。</p> <p>加賀市のブランド価値を最大化するため、伝統工芸品産業の振興にさらに注力し、世界へ大きく発信していくべきと考えるが、その意気込みと具体的な施策について問う。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (3枚目/全3枚)

氏 名 林 茂信

発言番号	発言事項及び発言要旨	備 考
(2) ①	<p>世界遺産などの登録推進について</p> <p>「加賀海岸」の世界遺産登録推進について</p> <p>加賀海岸地域は、令和3年に国の「重要文化的景観」に選定され、次の目標である世界遺産登録に向け、熱意と期待が高まっている。</p> <p>世界遺産登録は、宿泊需要の創出、シビックプライドの醸成、景観の維持などの大きな恩恵をもたらすことから、所在自治体として、文化庁、石川県への働きかけとともに、小・中学校の環境教育の一環として、児童・生徒が植樹や保全活動を体験する機会を創出するなど、市民を挙げた機運の醸成を図るべきであると考えます。</p> <p>そこで、NPOなどの活動を今後、どのように支援し、登録誘致の機運を盛り上げていくのか。</p>	
	<p>② 「温泉文化」のユネスコ無形文化遺産登録推進について</p> <p>「温泉文化」のユネスコ無形文化遺産登録を目指し、全国的に運動が加速している。登録実現には、加賀市が世界から選ばれるための戦略的な準備が必要である。例えば、各温泉地を一つの物語でつないで長期滞在を促す「高付加価値な滞在プラン」の構築などに着手するべきであると考えます。</p> <p>そこで、登録運動への市の参画の方針と、2030年にも見込まれる登録を見据えた、海外の富裕層をターゲットとした「加賀温泉郷」のブランド強化の具体的な準備、アピールの方策について問う。</p>	
6	<p>学校給食の地産地消のさらなる推進について</p> <p>「地産地消」による食の安全と郷土愛の醸成、「夢を持てる農業経営の育成」、「休耕田の利活用」の観点から、農業者と教育現場が一体となった強力な学校給食の地産地消のさらなる推進体制について見解を問う。</p>	
7	<p>国道8号「牛ノ谷道路」の早期実現について</p> <p>平成30年の豪雪を契機として事業化された牛ノ谷道路整備について、事業の経過と現状、今後の具体的なスケジュールを問う。</p> <p>事業の早期実現に向け、加賀市議会では、あわら市議会と議員連盟を組織して、毎年、国土交通省などに要望を行っているが、市当局として国や県に対して、さらなる予算確保や早期実現をどのように働きかけていくのか。</p>	